

●情報管理におけるGISの利活用

GISを利用してデータを蓄積することで、データ資産として総合的に利活用できます。

補修履歴管理

農地情報管理

図面管理

施設情報管理

施設の点検・修繕履歴を構築し、ストック・マネジメントに役立てます。

所有者、耕作情報に変動があった場合に、関連情報の更新を行います。

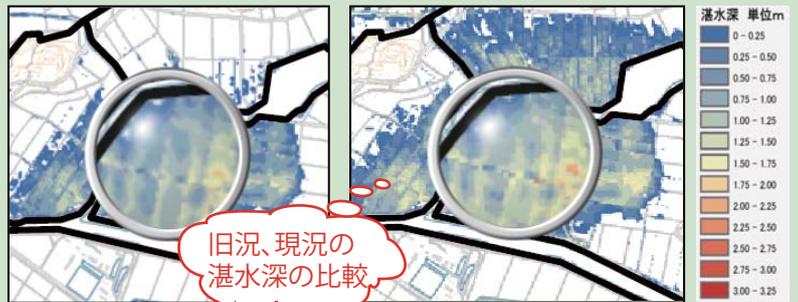
所有権や耕作権等、権利関係の図面を管理します。

農業揚排水路及び付属施設等の管理を行います。

●GISの総合的な活用

GISは、現地調査の支援や多様なデータ解析に効果を発揮します。

※受益地に関するH-A-Vの整理
 国土院の5mメッシュ標高データをもとに受益農地と重ね合わせ処理を行いH-A-Vの整理に活用するとともに、排水解析結果を可視化します。



※現地調査支援：土地利用現況調査入力GIS(タブレット)とGPSを利用し、コスト縮減を図ります。

現地で代掻き日、種まき区分、作付け作物等を入力

入力情報を即座に着色させ、入力ミス防止に利用

図形による一括指示で、作付け等の情報を入力できます。

GNSSの位置情報を同期させ、地図表示を自動化

20231114C-01